

2020年9月7日

金属産業新聞(5面)に掲載されました

ゲーム機向け好調も自動車低迷

日東精工第2Q 売上4.6%減に

日東精工(株)(京都府綾部市、材木正己社長)の2020年12月期第2四半期の売上高は前年同期比4.6%減の158億8700万円だった。ファスナー事業は、ゲーム機向けの精密ねじが好調だったが、主力の自動車向けが大幅に減少した。

営業利益は5億6900万円(同57.1%減)、経常利益は6億2800万円(同55.2%減)、四半期純利益は3億5100万円(同60.8%減)となった。

昨年6月に同社の販売代理店である松浦屋(株)(東京都)を子会社化、

今年4月に三菱ケミカル(株)の子会社を取得して日東精工アナリテック(株)として事業を開始。これによりグループの拡充で売

上が拡大したが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で国内、海外子会社の受注減少が響いた。ファスナー事業は、ス

ティホーム需要によりゲーム機の増産が影響して精密ねじが好調に推移し

て売上増に貢献したが、主力の自動車業界が生産活動の停止の影響により

事業全体の業績をカバーできなかった。

業績を牽引してきた産業事業は設備投資の延期や凍結が相次ぎ利益を押し下げた。制御システム事業は日

東精工アナリテック(株)の売上が寄与して大幅増収も、企業取得に関わる費用計上と好採算製品の地盤調査機シオカルテや部品検査装置ミストルが低迷して収益は大幅減益した。

2020年12月期通期の予想は、主力の自動車業界が回復傾向にあるものの新型コロナウイルスの影響で不透明な状況が続いているため未定とした。